

出会いは自己実現を加速させる

矢尾板俊平

このたびは、「中央大学南甲倶楽部賞」という大変名誉な賞を受賞し、心より感動いたしております。これを励みに今後の学究生活でさらなる努力を続けてまいりたいと思います。

私の4年間は「出会い」の連続でありました。良き先生方、先輩方、友人たち、後輩たちとの出会いは、どれも欠かすことのできない素晴らしい「出会い」であります。こうして4年間を振り返っていると、そうした多くの出会いが次々と思い出されます。

現在もご指導いただいている横山彰教授との「出会い」。その出会いを通じて学問研究コミュニティとの「出会い」。また、公共選択学会の国際大会に出席するために、あらかじめ Mueller, D.C. (1989), *Public Choice* Cambridge University Press という公共選択論のテキストを読むようにとご指導をいただいたことによる公共選択論との「出会い」。このような出会いによって、私は次第に「将来は研究者として、大学に職を得たい」と考え、大学院に進学することを念頭に学ぶようになりました。そうした目標や夢があることによって、学問に対する姿勢に妥協をすることなく、努力を続けることができました。現在は、夢の第1歩を実現することができ、本学総合政策研究科で政策研究を行っております。

また、私の学部生時代の中心的な活動に他大学の学生との交流がありました。ひとつは、私の所属する横山ゼミが毎年、多くの他大学のゼミナールと対抗討論会や研究発表会を行っており、それに4年間参加し、多くの貴重な体験をいたしました。また、政策系の学部の学生が集まり、様々な問題について議論をしたりする学生版「ダボス会議」である「政策・情報学生交流会」に学部2年生の春休みから参加し、交流会の活動の大部分を占める分科会を毎回担当するなどの活動をしてまいりました。こうした他大学の同年代の学生との「出会い」も大変貴重なものでありました。「「出会い」は「出会い」を呼ぶ」。つまり、ひとつの出会いがまた新たな「出会い」につながるということを実感することができました。現在、政策に関わる研究者と実務家間のネットワーク形成を支援し、政策研究を発展させようという試みで立ち上げられた「政策分析ネットワーク(代表:竹中平蔵氏)」の活動もお手伝いをさせていただいておりますが、そのきっかけは学生交流会で出会った何人かの先輩方との「出会い」がきっかけです。

「出会いは自己実現を加速させる」。これは、私がこの4年間の様々な体験から感じ得たことです。今後も「出会い」を重ね、自分の夢を膨らませ、目標に向けての「自己実現の旅」を続け、この「南甲倶楽部賞」をその永遠に続く旅の心強い自信としてまいりたいと思います。また、私が社会に対して貢献し、活躍することで「南甲倶楽部賞」の価値を益々高めたいと考えております。

最後に南甲倶楽部の学員の皆様、私を支えてくださっている皆様、多くの「出会い」によって私を成長させてくださった皆様に感謝を申し上げます。(1279文字)